

032, 041, 049 指導書シリーズ

新家庭総合 < 家庭032 >

- ◆ 家庭032 新家庭総合 指導ブック(全2巻)
B5判 / 144頁(第1巻)・256頁(第2巻)
- ◆ プリント素材集(テスト問題・ワーク)
B5判 / 96頁
- ◆ サポートCD-ROM
(教科書全文, 教科書準拠のテスト問題などを収録)

新生活技術 < 家庭049 >

- ◆ 家庭049 新生活技術 指導ブック(全2巻)
B5判 / 160頁(第1巻)・272頁(第2巻)
- ◆ プリント素材集(テスト問題・ワークなど)
B5判 / 96頁
- ◆ サポートCD-ROM
(教科書全文, 教科書準拠のテスト問題などを収録)

新家庭基礎 < 家庭041 >

- ◆ 家庭041 新家庭基礎 指導ブック(全2巻)
B5判 / 128頁(第1巻)・240頁(第2巻)
- ◆ プリント素材集(テスト問題・ワークなど)
B5判 / 96頁
- ◆ サポートCD-ROM
(教科書全文, 教科書準拠のテスト問題などを収録)

「指導ブック」の構成は<指導計画案><教科書見開き解説>の2部構成になっています。

< 指導計画案 >

教科書に沿った指導展開例や板書例, コラムを使った展開例を掲載しました。コピーしてお使いいただける参考資料も豊富です。

< 教科書見開き解説 >

教科書執筆陣が, 教科書の内容とその周辺を, 専門的立場から簡潔に解説しています。見開きごとに示していますので引きやすく, また, 補足資料も満載ですので教科書の記述をさらに深く理解することができます。

1 自分らしい生き方を考えよう

1 「これまで」「今」そして「これから」

■指導計画案

●指導時間のめやす=2時間

ねらい

・ライフステージと生活課題について理解させ、自分自身のこれからの生活と人生を考えさせる。

指導展開例

指導事項	指導の内容・ポイント	資料記号
導入：「自分らしさ」とは	自分自身について考えさせる ◆自分の考え方や価値観、行動を振り返らせ、周りの人との共通点や相違点を整理させる。 ◆自分はこれからの人生で何を大切に生きていくと思うかを考えさせる。	○考えてみよう(教科書p.6) ○コラム(教科書p.6)
！生涯にわたる成長とライフステージ	ライフステージの考え方を理解させ、各段階での課題を整理させる ◆人間の誕生から死までを、ライフステージという段階に分けて考えさせる。 ◆ライフステージごとにどのような課題があるかを整理させる。	
* 青年期の課題① 一自立と共生	自立と共生について理解させ、今の自分に欠けているものを見つめさせる ◆自立の三要素(生活・経済・精神)のなかで、自立できている面と不十分な面を整理させ、高校生として今しなくてはならないことを見出させる。 ◆生きていくうえで、家族や周囲の人々とどのような協力が必要であるかを考えさせる。	○コラム(教科書p.8) ○発展学習(教科書p.8)
■ 青年期の課題② 一職業観を確立する	職業観とは何かを理解させ、就業について考えることを通して、現在の自分と将来の自分を具体的に近づけさせる ◆働くことの意義と職業観について考えさせる。 ◆働き方にはいろいろなスタイルがあることを知らせ、自分にどのようなスタイルが合っているかを考えさせる。	○図2(教科書p.9) ○コラム(教科書p.9) 参考資料①

指導事項	指導の内容・ポイント	資料記号
§ 青年期の課題③ 一人生のパートナーを選ぶ	人生のパートナー選びである結婚について理解させ、自分の考えをまとめさせる ◆結婚の形態や選択が多様化していることを知らせる。 ◆自分の職業観や人生観とも合わせて、結婚に対するイメージをまとめさせる。	○図3,4,5(教科書p.10) ○図3,4,5(教科書p.10)
※ 自分で描くライフコース	これまでの学習をもとに、自分のライフコースを描かせる。 ◆各ライフステージごとの課題をふまえて、自分の人生を描かせる。	○図6(教科書p.11)

板書例

- ・自分の考え方・価値観・行動と、周りの人との共通点、相違点は何か
- ・ライフステージ 乳幼児期・児童期・青年期・成人期・高齢期のそれぞれの課題は何か
- ・生活的な自立/経済的な自立/精神的な自立 自立できている面と不十分な面を具体的に示す
- ・働くことの意義は何か フリーターやニートをどう思う？
- ・結婚の多様化に対し、自分はどんな道を選びたいか
- ・自分のライフコースを描いてみよう

参考資料① 正社員と契約社員の違い

「正社員」とは、「期間の定めのない労働契約」を締結して雇用されるものをいいます。「期間の定めがない」といっても、一般的には会社の就業規則などで退職の年齢(60歳など)が定められていますが、退職の定年までには数十年に及ぶ長い期間があり、そのような長期の雇用を前提にした能力開発やキャリアの形成が行われていきます。

一方、契約社員は、それぞれの契約で定められた期間だけ雇用されるものです。契約社員も企業の従業員であり、労働基準法などの法律は適用されますが、勤務時間や賃金などは会社の就業規則とは別に定められる場合が多く、ボーナスや諸手当、昇給などが無い場合もあります。

契約社員の契約期間は1年～3年くらいが大半を占めます。正社員の場合は、就業規則に違反するなどの重大な過失がない限り定年まで雇用され続けますが、契約社員の場合は、契約期間が満了すればその時点で社員の身分を失います。新たに契約を更新するなどして雇用が延長されることもありますが、労働者が望んでも会社側の合意が得られなければ契約は更新されず、労働者にとっては不安定な要素が多いと言えるでしょう。中には、契約時に更新回数を「1回限り」などと限定している企業もあります。また契約社員としての採用でも、その後「正社員への登用制度」がある場合もあり、逆に「正社員への登用はなし」という条件もあるので、雇用契約の際にはこうした内容をきちんと確認しておく必要があります。

教科書コラムの展開例

▼10代の本音 (p.6)

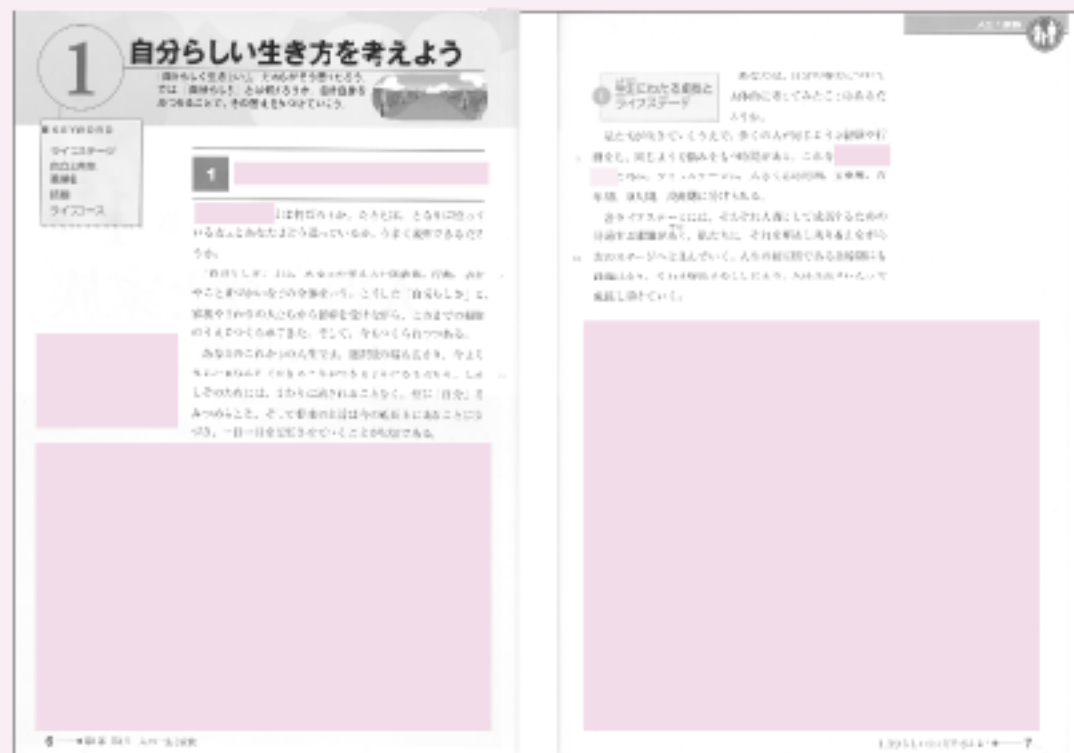
自分の考えに一番合う意見を選ばせ、発表させる(合う意見がない、という場合には、自分の本音を発表させる)。そして、自分が人生に対して肯定的な見方をしているのか、否定的な見方をしているのかを考えさせる。

▼バラサイト・シングル (p.8)

バラサイト・シングルの例を読んでどう感じるか、自分の意見を発表させる。また、子どもと親の両方の立場から問題点を考えさせ、発表させる。

▼世界に出会い、仕事に出会う (p.9)

コラムを読んで、自分自身が「やりたい仕事」に出会うために必要なことを具体的に考えさせる。



解説

【例】「これまで」「今」そして「これから」

「「これまで」「今」そして「これから」」の部分は、家族の導入であると同時に、この教科書全体の導入としての性格も併せ持っている。教科の目標「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と態度を育てる（学習指導要領より）」を実現するためには、まず自分自身を振り返り、自らの価値観や生活を見つめ直すことから始めなければ、机上の空論にしかならないであろう。逆に言えば、これまで生きてきた中で確立されつつある人生観、価値観、家族観、生活観や経験してきた生活行動を洗練させ、自分らしさの発見、自己実現の手段にまで高めることが、家庭料に求められる役割といえるのではないだろうか。

用語解説 自分探し：自分らしさがわからなかったり、自分にあった職業、夢、愛する人、関係者などを求めて、旅に出たり、さまざまな活動をすること。

【例】「自分らしさ」

「自分らしさ」は、その人の「人格」と考えることもできる。人間の人格はどのようにしてつくられるのだろうか。このことについては、これまでにさまざまな研究が行われているが、遺伝的な素質に加えて、生育環境が大きく関与していることがわかっている。与えられた素質を自分なりにどのように向上させていくかによって、人生は変わっていく。

高校生には、「今」の自分の人格が「これまで」の生活の積み重ねによって形成されてきたことを理解させたい。これからの自分を決めることになる「今」の過ごし方について考えさせたい。

【例】コラム 「10代の本音」

出典「素顔の十代」基礎データ

- 編者：読売新聞世論調査部編
- 価格：1,365円（本体：1,300円）
- 出版社：弘文堂
- サイズ：B6判 / 193p

●ISBN：433555088X

●発行年月：2003.7

【例】ライフステージ

「ライフステージ」の考え方は、人生をいくつかの区切りに分けて、それぞれの特徴を際立たせるというものである。

ここでは、「乳幼児期・児童期」「青年期」「成人期」「高齢期」に分けたが、この区分は絶対的なものではない。社会調査で用いられるライフステージは、その目的などによって、さまざまに区切られている。例えば、生活時間に関する調査である総務省統計局の「平成13年度社会生活基本調査 アンペイドワークに関する特別調査」では、ライフステージを次のように区分している。

10歳以上の人について、年齢、配偶者や子どもの有無等によって、次のように区分した。

- ・親と同居の25歳未満の人(配偶者なし,子どもなし)
- ・親と同居の25~44歳の人(配偶者なし,子どもなし)
- ・18歳未満の子どものいるひとり親
- ・18歳未満の子どものいる夫・妻
- ・45歳未満で、18歳未満の子どものいない夫・妻
- ・その他の45歳未満の人
- ・45~64歳で、18歳未満の子どものいない夫・妻
- ・その他の45~64歳の人
- ・65歳以上で、18歳未満の子どものいない夫・妻
- ・その他の65歳以上の人

近年では、「乳幼児期・学童期」「青年期」「成人期」「高齢期」という分類に加え、自立に時間のかかる青年が増えたことから、「ポスト・青年期」というライフステージが考えられるようになってきている。

【例】人生についてのその他の言葉

・ライフサイクル

人生の流れを円に見立て、人が繰り返す一生の周期をライフサイクルと呼ぶ。ライフサイクルの考え方は古くからあったが、C・G・ユング（スイスの精神分析学者）やダニエル・レビノフソン（アメリカの心理学者）、ニリク・H・エリクソン（次ページ参照）によって、理論化された。人だけではなく、家族や製品について

用語解説 ライフスタイル：人々の生活、行動、思考の様式のこと。個人の生活を構成する欲求や価値観などの存在的要素と、衣食住生活、交際、余暇活動、マスコット、生活時間の配分パターンなどの存在的要素からなる総合的な概念である。

も用いられる。

・ライフプラン

生まれてから死ぬまでの時間的な長さについていうときに用いる。

・ライフイベント

人生の節目における大きな出来事をいう。例えば、就職、結婚、子どもの誕生、子どもの結婚、住宅購入、自動車購入、定年退職など。

【例】図1 人の一生とライフステージ

図に示されたそれぞれのライフステージの年齢およびその特徴は、おおよそ次の通りである。

① 乳幼児期・学童期：乳幼児期は出生～小学校就学前まで。出生にともなう新しい環境への適応が求められる。学童期は小学生の間。集団生活への適応が求められる。教師や友人など人間関係が広がり、対人関係を築くことが必要になる。② 青年期：中学生～20歳代前半頃。心身のさまざまな面で急激な成長をみられるとともに、自我の確立へ向けて葛藤が始まる。③ 成人期：20歳代後半頃～60歳代前半頃。就職や結婚などにより、新たな人間関係が生まれ、子育てなどを通して社会とのかかわりにも広がりが見られる。④ 高齢期：60歳代後半頃～。退職などで生活環境や社会との関わり方が変化する。

● 展開例 ●

考えてみよう

例えば、「父親に対して」「母親に対して」「まようだいに対して」「同級生に対して」「教師に対して」など、対象を具体的に設定したうえで、各自の思いを言葉にさせてみるとよい。そのうえで、「大人に対して」「社会に対して」などと対象を広げてみると、自分の思いにどのような変化が見られるかも考えさせる。

【例】図1 人の一生とライフステージの課題例

人の一生を概観し、現在、青年期にいたり、成人期や高齢期になってもライフステージの課題にあり、それを乗り越えることによって、生涯発達していくことを気づかせる。